

彼岸過ぎから急に暖かく、春本番になりました。

部屋にいても、黄や白の蝶が庭を訪れているのが見えます。ウグイスも毎朝鳴くようになり、コブシも梢の先まで白い花盛りです。毎年巡りくる新しい生命の季節です。

いつもだと家にじっとしていられなくて、野や林をほっつき歩いては季節の喜びを身体じゅうに感じるのですが、今私は家の中です。大切な家族が病を得て、少しでも寄り添っていたいからです。

家でできる何か楽しいことってないかな・・・と思っていたら、見つかりました。植物で染める草木染です。

以前から少しずつ染めてはいたのですが、このところ草木染の面白さを再発見しています。草木染めと言っても、私のは主に樹木染めです。

冬から春にかけて、木々は花の咲くエネルギーを幹や枝にたっぷり蓄えていて、それが木の持つ生命の色となって出てきます。散歩に行くと、この時期、枝の剪定も盛んで、行きは身軽でも、帰りは両手に枝を抱えて、ということがよくあります。

持ち帰った葉つきの枝はその日の内に大鍋でぐらぐら煮て染料をとり、羊毛の原毛を煮染めます。太めの枝は鉋で小さくチップにしてから煮ます。まだ芽吹いていない裸の木々の枝からどんな色が現れるのか、羊毛がどんな色に染まるのか、やってみないとわからないところが魅力です。

2月から3月にかけて、染めてみたのは次の木々たちです。

白梅、紅梅、ハンノキ、柚子、桜、ヒサカキ、金木犀、山椒、杏、山茶花。

白梅は西緑地で剪定された蕾つきの枝。紅梅はKさん宅の満開の枝を頂いて。柚子や杏などは自宅で剪定したもの。通りがかりに、ソメイヨシノとヒサカキの大量の枝が伐られて

いるのを見つけた時は、まるで宝物に出会ったようでした。

ソメイヨシノはピンクに染まるかと思ったら、金茶色になりました。山桜ではどうなのでしょう。その時、その土地の色ができるでしょう。ヒサカキは

葉も花も地味な木なのに、現れてくる色はは明るい金色です。

色々試している内に、同じ樹木の染料で2度3度と染めていくと、大人しい平凡な色も深みのある素敵な色になっていくのに気がつきました。もしかすると経験を重ねていく人生も似たようなものかもしれないと、思ったりしています。

思いがけない色に出会ってその樹木の持つ生命の芯に触れたと思う時、私の内でも揺れるものを感じます。その時その場所ですれ違うものは異なっても、自然は多種多様な生命に満ちていて、出会った生きものたちに励まされながら、私もまた生きていくのです。

